

# 家庭と教会で世界宣教を

世界宣教の日 ④ 2017年10月22日



イエスは言われた。「わたしは道であり、真理であり、命である。」

(ヨハネ14、6)

「わたしを信じる者は、わたしが行う業を行い、  
また、もっと大きな業を行うようになる。  
わたしが父のもとへ行くからである。  
わたしの名によって願うことは、何でも  
かなえてあげよう。こうして、  
父は子によって栄光をお受けになる。」

(ヨハネ14、12-13)

# 『福音を証しする勇気と喜びを』



「イエスは、ガリラヤ湖のほとりを歩いておられたとき、シモンとシモンの兄弟アンデレが湖で網を打っているのを御覧になった。彼らは漁師だった。イエスは、『わたしについて来なさい。人間をとる漁師にしよう』

と言われた。二人はすぐに網を捨てて従った。」(マルコ 1、16)

## 現在の生活現場で、私たちができるあかしを

今日は世界宣教の日です。個人として、或いは信者の共同体として、私たちが実行できる具体的なアクションを考えましょう。

1. 身近にいる弱い立場の人々のいのちについて。  
小さい子どもたちの虐待、病人の苦しみ、高齢者などの孤独、等々。いのちと福祉を守り支える活動を心がけていますか。
2. 人類の美しい住処として神様から与えられた自然の保護について。  
環境破壊、汚染と公害、エネルギーや食料の過剰消費、貧困や砂漠化、原子力諸問題について関心を持ち、自然保護に努めていますか。
3. 神さまの賜物である真の平和について。ミサ中に常に「平和の挨拶」を交わしていますが、平和と協力を創る交わりや、企画される諸活動に関心を示し、積極的にかかわっていますか。
4. 国際社会は多くの問題を抱えています。貧困の深刻化、戦争等のために、家・家族・財産のすべてを奪われる人が難民となり、他国で保護と救済を求めています。教会に来る外国人は年々多くなっています。隔たりなく彼らを温かく受け入れ、声かけをしていますか。

# 教皇フランシスコの呼びかけ



2017年「世界青年の日」

教皇メッセージ(抜粋)

**「力あるかたが、わたしに  
偉大なことを  
なさいましたから」(ルカ1・49)**

## マリアに学びましょう。

『そうです。おとめマリアが受けた偉大なたまもの一つは信仰です。神を信じることははかりしれないたまものですが、それを受け入れることを必要とします。』

「マリアの賛歌」は、一人の信仰あふれる若者による革新的な祈りです。マリアは自分の限界を認め、神のいつくしみを信頼しています。この勇敢な娘は、神が身分の低い自分に目を留めてくださり、貧しく謙遜な人々のために救いのわざを行ってくださることに感謝しています。信仰はマリアの全生涯の中心です。

神が若者の心に触れると、その若者は真に偉大なことができるようになります。全能の神がマリアの人生においてなし遂げた「偉大なこと」は、わたしたち自身の人生の旅路にも当てはまります。

皆さんはわたしにこう言うかもしれません。「教皇様、わたしには限界があります。わたしは罪人です。わたしに何ができるでしょう」。

皆さんも若いマリアと同じように、自分の人生を、世界をよりよくするための道具にすることができます。イエスは人生に足跡を残すよう呼びかけています。それは皆さん自身の歴史だけでなく、他の多くの人々の歴史にも残る足跡なのです。

## 宣教者の召し出しを祈る

いつくしみ深い神よ、  
世界のすべての人が  
主イエスの祭壇を囲む  
一つの家族となるために  
わたしたちの共同体のなかからも  
世界の福音宣教に生涯を捧げる  
若い男女の召命を呼び起こし  
成就まで支え導いてください。

わたしたちが  
かれらと共に働き  
全人類は  
福音の言葉に照らされて  
希望、正義、平和を望み  
愛と連帯のきずなで  
結ばれますように  
祈ります。  
主キリストによって。  
アーメン。

